

# 保険組合

を會社の手に (原文・儘)  
乗せられて作ってならぬ

諸君—吾々は先に會社に對して全職工の意志に依る健康保険に對して、遺憾なくした。而して  
乍ら會社は、今迄とつた態度は悪かつたといふが、今度吾々も一人／＼まびつりて、嘆詞の  
調印を取滅したのだ。これ何とういふ事なつた—吾々は此會社の卑劣な態度にあきれる。吾  
々は兎に角その意志を一人會社に示した。もしん保險組合は其条文からいっても労働者と相  
談して作れといふて居る、それを會社もかさにせよといふのは之は會社、たゞらぬがあるのだ。  
會社はおれ達の生活の苦いことも知らず居る、それだから此のり方は吾々をおどろかしたり、こま化  
したりし様と云ふうた。會社の手に乗るな 昨年の暮會社が日給の支拂と一面にした時、嘆  
詞書と會社にまかせられ—會社にまかせたらよくするといふが、遂にも水をゆるな  
かつたではないか。今度も度々だ—その手に乗るな。吾々はこの一日五銭—六銭といふ様な  
重い負担は出来ぬ、吾々は皆—しよに此事を相談しようではないか。吾々は之に對して職工大會